

# 超スマート社会実現に向けて取り組むべき事項

2015年10月13日

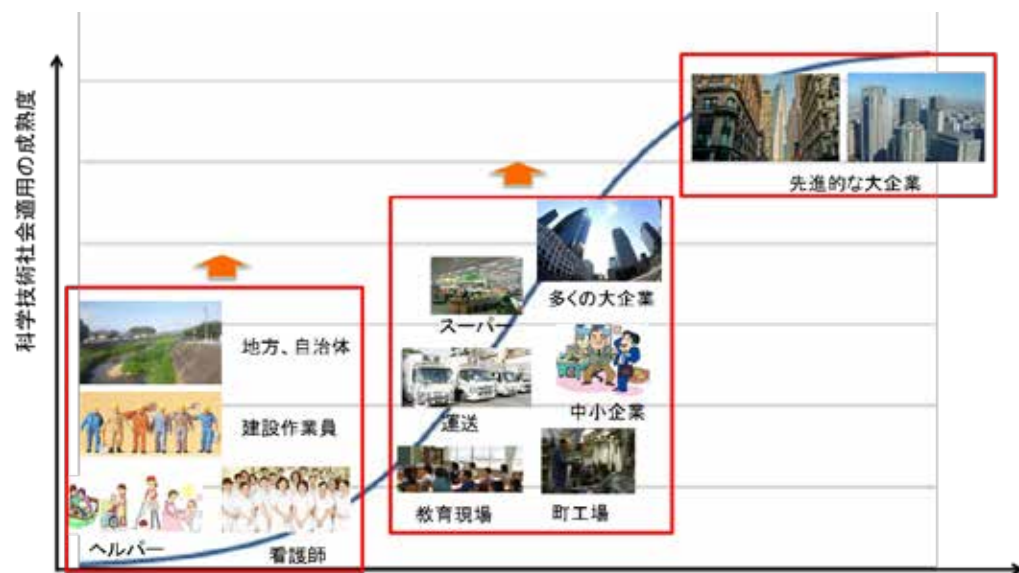
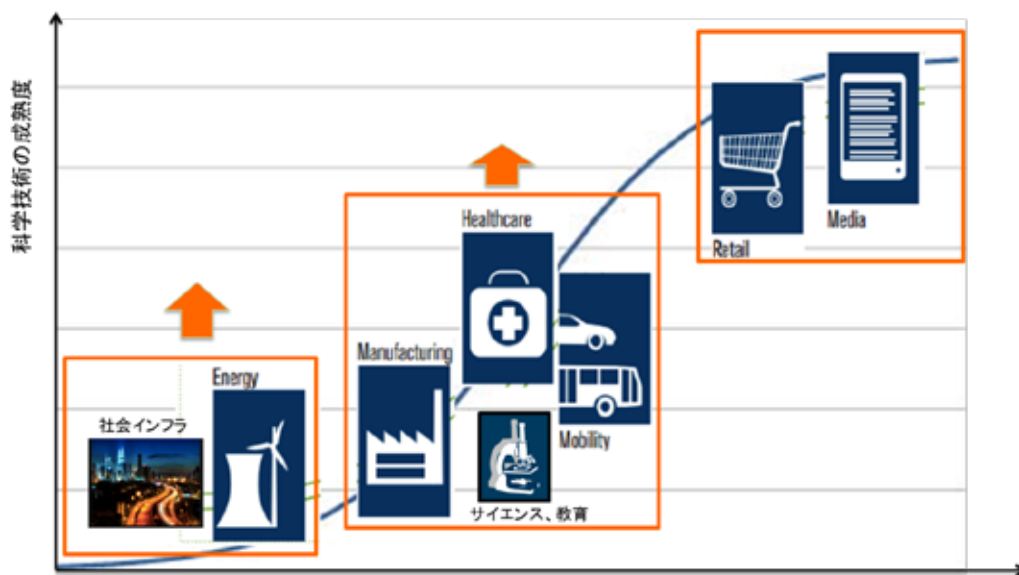
岩野和生

科学技術振興機構 (JST)

研究戦略開発センター (CRDS)

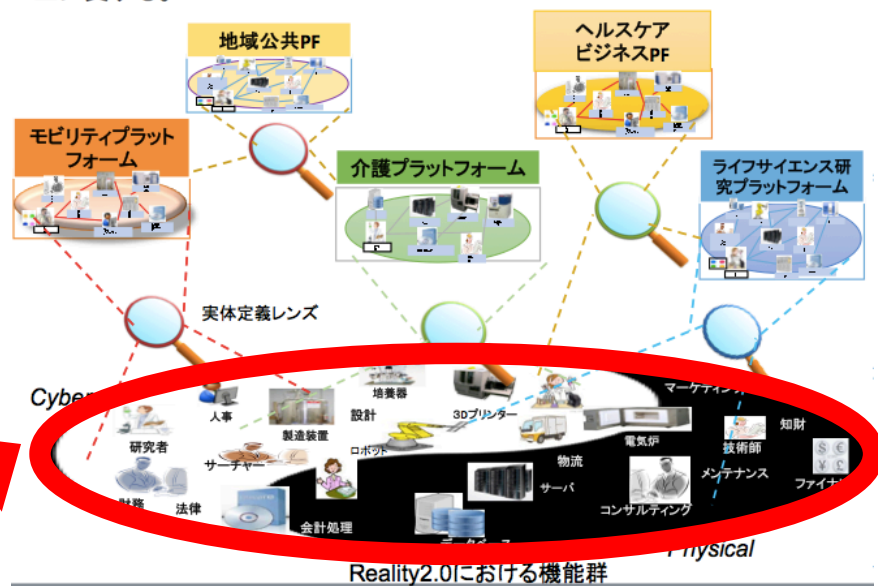
# 超スマート社会実現に向けて(1)

- 超スマート社会ではこれまで以上にサイバーが現実世界との融合が進展する社会となる
- 融合の進展によって、これまでダイナミックな変革を行えなかったセクターやドメインが革新的に変わり、新たなサービスや産業の創出が期待できる



# 超スマート社会実現に向けて(2)

- 超スマート社会実現に向けては、様々なドメインやサービスに共通するサービスプラットフォームの構築が必要
- 基盤技術に加えてサービスプラットフォーム共通基盤技術の研究開発、関連する制度/仕組み作りを世界に先駆けて着手することが重要



# サービスプラットフォーム共通基盤技術の要素技術と検討すべきこと

サービスプラットフォーム共通基盤技術には、下記の要素技術が必要

## ○ コンポーネント化技術

- 様々な機能をコンポーネント化し、必要に応じて呼び出せるようにする技術
- 例：API(Application Programming Interface)、エージェント技術 等

## ○ 統合化技術

- コンポーネント化された様々な機能を状況に応じて、必要なものを適切に統合して利用できるようにする技術
- 例：サービス保証技術、Software Defined Society、統合するコンポーネントの最適化 等

## ○ 運用に関する技術

- 構築したサービスプラットフォームを継続して安定的に運用するための技術
- 例：認証、モニタリング、価値の再配分、プロビジョニング、セキュリティ 等

また、サービスプラットフォームの構築にあっては、下記についても検討すべきである

## ○ サービスやデータの標準化

○ 社会・人文学と自然科学の総合的実践 (SSH (Social Sciences and Humanities) , ELSI (Ethics, Legal and Societal Issues) )

## ○ 継続的な管理運用体制

# サービスプラットフォーム共通基盤技術の推進方策

## 1. 目標を設定した拠点型プロジェクト

- ・超スマート社会に適した複数の社会機能のサービスプラットフォームの構築の実践
- ・例えば、ある地方自治体において、社会コストを10%下げるという目標を設定し、そのための研究開発とサービスの実践を行う。その際にあるドメイン(ヘルスケア、モビリティ、製造業等)での検証を行う。

## 2. 省庁横断的戦略科学技術研究の推進

- ・サービスプラットフォーム共通基盤技術に必要な統合的研究の推進
- ・例えば、各省庁が推進するプロジェクトのサービスプラットフォームに関する研究を統合的に実施する

## 3. 革新的萌芽的研究の推進

- ・超スマート社会の到来を見据え、関連する技術の研究の基礎力の向上と、優れた人材の育成、国際連携の推進
- ・例えば、超分散協調コンピューティング、超リアルタイム情報捕捉技術、社会的費用の計測技術 等

ρ いずれの方策も、特定の技術のためだけの研究とならないよう、超スマート社会の実現という共通の方向性を持って取り組むことが必要

ρ 関係府省、研究機関等が連携して取り組むことが重要であり、そのために総合科学技術イノベーション会議がイニシアティブを発揮して推進することが必要